# A visit to the "Pettenkofer Institut für Hygiene und Medizinische Mikrobiologie" in Munich, Germany


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-04<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/8443 |

# ドイツ・ミュンヘンにペッテンコーヘル研究所を訪ねて

金沢大学医学部衛生学講座
橋　本　和　夫

今夏は，英国中毒学会主催の毒性機序研究会に招かれて，一週間イギリス中部の都市レスター (Leicester) に滞在した．ここからの帰国の途次，折角の機会をとらえて，以前から是非一度訪ねたいと考えていた，ミュンヘンのペッテンコーヘル研究所訪問を計画した．幸いミュンヘンには，本学第一内科Ｉ医師が同大学・生理学研究所で研鑽中である．そこで同君にお願いして，指導教授ツーラウ博士に仲介の労をとっていただいた．

ペッテンコーヘル研究所は，衆知の高名な化学者・医学者で，近代衛生学とくに実験衛生学の生みの親である，ペッテンコーヘル (Pettenkofer, Max Joseph von, 1818-1901) 教授によって1879年に設立されたもので，世界最初の衛生学研究所である．ここに学んだ日本の学者も数多い．また，ペッテンコーヘル教授については，書物によって，細菌学者・病理学者などとの紹介もある．これは彼の巾広い業績によるものと考えられる．研究所はミュンヘン中央駅に近いペッテンコーヘル通りに面している．この周辺には，ミュンヘン大学附属病院やＩ医師のおられる生理学研究所をはじめとした医学関係の施設が集っている．現在のペッテンコーヘル研究所は，教授が最初設立した建物ではない．これは第二次大戦中に戦禍を受けたので，約20年前に元の場所に近い現在位置に新築された．近代的で，かつ堂々たる構えを持つ建物である．

約束の時間に研究所に着いて案内を乞うと，二階のセミナー室に通された．間もなく，数名の研究所教授が次々と集って，私への歓迎の言葉を下さった．続いて各教授から現在の研究の簡単な説明があったが，それによると研究所での研究の主体は，現在 microbiology, microgenetics などに置かれており，従来の衛生学，とくにペッテンコーヘル教授のはじめた実験衛生学研究は，１割程度との事であった．現在これらの研究は，ドイツの各大学でそれぞれおこなわれ，とくに北部工業地帯に所在する大学で，環境衛生学を中心にした研究が盛んであると説明された．

各教授からの説明に続いて，日本の医療，保健衛生の現状について，次々と質問を受けた．日本の疾病構造，がんをはじめとした成人病，感染症，食中毒の発生状況などに特に質問が集中した．また日独医学の交流にも関心が深いと思われた．私が今回の研究所訪問の目的の一つとして，ペッテンコーヘル教授の業績に興味を持つことを述べたのに対して各教授から，「我々も勉強不足だ」としながらもいろいろ逸話などの披露があった．中でも興味深かったのは，教授の化学者としての能力と功績である．一つは，油絵具の改良についてで，絵具の調合に際して出来る泡の除去に成功し，当時の画家たちから立派な感謝状を受けたこと，また当時用いられていた銀貨に，不純物？として含まれていた金を抽出する技術を開発して，政府から多大の賞賛を得たこと，などがユーモラスに語られた．

これら教授たちとの会談のあと，現在の臨時所長であるルックデシェル教授が，とくにペッテンコーヘル教授にゆかりのある研究所内の２，３の場所を案内して下さった．玄関近くにはペッテンコーヘル教授のブロンズの大きいレリーフがある．二階ロビーには，初代ペッテンコーヘル教授から現在までの歴代所長の名が大きく掲げてある．図書室には，ペッテンコーヘル教授の多くの業績に対して，当時のヨーロッパ各国の皇帝や首長などから贈られた勲章や賞状の数々が保存されている．

今回のペッテンコーヘル研究所訪問は，短い時間であったが，以前からの願いがかなえられ，私にとって収穫の多い旅であった．今後も事情が許す限り，学問の歴史や現状をたずねる機会を作りたい．